

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 29年 7月 30日			
所属学部・研究科	文学部/研究科 3年次 (留学開始時点)			
留学先大学	マンチェスター大学 (国名: イギリス)			
所属学部・学科等名	Linguistics and English Language, French の授業を受けた。			
在籍身分	University-wide Exchange student			
留学期間	平成 28年 9月 20日 ~ 平成 29年 6月 20日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類: Tier4 visa			
	ビザ申請先: 大阪			
	取得方法, 提出書類: visa application form, IELTS の score sheet の写し, CAS statement, パスポート, パスポートの写真的コピー等 大阪の指定された場所にこれらの書類を持参して簡単な面接のようなものを受けた。			
	手続きに要した日数: 30日			
その他必要な事前手続き	実際に申請に行く以外にもネット上の手続きもあった。イギリスはビザ審査が厳格で申請まで時間がかかるので早めに行うようにした方がいいと思う。			
出国年月日	平成 28年 9月 20日			
経路	広島 → 東京 (成田) → デュッセルドルフ → マンチェスター			
現地での出迎え	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (○大学関係者 ・その他) <input type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	授業開始の一週間前であった。医者の登録や履修登録の方法、大学の窓口の説明など基本的なことについての説明が主だった。また他にも大学の society や治安や警察に関するオリエンテーションもあり、そちらも役に立った。			
帰国年月日	平成 29年 6月 20日			
経路	マンチェスター → デュッセルドルフ → 成田 → 広島			
2. 留学経費について				
所要経費	総額	1,707,130		円
	内訳	渡航費	231,250	円
		保険料	115,780	円
		教科書代(学費)	46,500	円
		宿舍費	598,700	円
		食費	284,000	円
		その他 (旅行 費)	230,600	円
(ビザ 費)	59,900	円		
(その他 費)	140,400	円		

3. 授業について			
2016年	1学期	9月 25日	～ 1月 21日
2017年	2学期	1月 22日	～ 6月 9日
年	学期	月 日	～ 月 日
年	学期	月 日	～ 月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	週一回の lecture と seminar が授業ごとにあった。Lecture は1時間と2時間のものがある。自分は主に文学・言語学の範囲から授業をとったが、条件を満たせば他学部や2,3年生の授業も取ることができる。ほとんどの学部で IELTS7.0 を満たしていれば大丈夫だと思う。		
単位互換希望の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること		
学術面に関する後輩へのアドバイス	予習をしっかりとすること, 分からないことがあったらメール等で先生に質問することが大事だと思う。どんなことでも先生は必ず協力してくれる。		
4. 生活等について			
(1) 留学先の住居について			
住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()		
住居の広さ	約 10 m ²	同居人の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (8 人) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input checked="" type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input type="checkbox"/> 暖房 <input type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他 ()		
住居費	1ヶ月当たり £432	(現地通貨)	約 60,480 円
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ()		
留学先での住居全般に関するアドバイス	私は City Campus の Whitworth park という寮で, 9人でシャワー3つ, トイレ2つ, キッチンをシェアしていた。基本的に不便なことはなかったが, 寮でパーティーがあった時には80人ぐらいの人が来て, トイレや後片付けが大変だった。少し高くなるが, Denmark Road というトイレとシャワーが自分の部屋についている寮もあるため, そちらを選んでも良いかと思う。ただし早く予約しないと入れない。寮には City, Victoria, Fallowfield の3つのエリアがあるが, City は学校や中心街に近く便利である。また部屋の水道水は飲みすぎるとお腹を壊すことがあるので, 気をつけた方が良い。		
(2) 医療について			
1日以上入院を要する 病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> しなかった		
入院した場合	により 日入院		
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった		
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ()		
掛け金は	年間 115,780 円 (10か月) 補償額 死亡 1,000万円, 入院1日 円 その他 ()		
留学前後での予防接種の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
有の場合, その種類, 回数, 費用, 受けた医			

療機関名		
日常的な健康について不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由：	
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	病院は基本的に無料である。特に利用しなかったので詳しくはわからないが、利用する場合、かなり長い時間待たされるらしい。そのためもし病気になった場合にはすぐに連絡する方が良いと思う。	
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	自分の留学先は一年を通じて気候が穏やかだったので、特に風邪をひいたりすることはなかった。しかし寮に暖房がなかったので冬場は寒かった。また雨が多く食品が腐りやすいため、管理をしっかりとった方が良い。	
(3) 危険を感じた地域, 状況		
夜 10 時頃に夜道をスマホを操作しながら歩いていると、後ろから自転車に乗ってきた男にひたたくられた。普段使う通学路だったため少し油断していた。夜には酔っ払いも多くなり、差別的なことを言われることもあった。また通学路には普通にホームレスがいて、お金をせびられた。中には危ない人もいたので関わらない方がいいと思う。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
食事は食事付きの寮を選ばない限り基本的に自炊が中心になる。外食は高く、必ずしも美味しいとは限らない。食材は安く、日本食のスーパーもあるため、自炊していても困ることはない。学校に食堂もあったが、3 時までしか開いていなくて、料理の種類も少なかったため、あまり利用しなかった。		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 30 年 3 月 (当初の卒業予定年月 平成 30 年 3 月)	
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	<input type="checkbox"/> 4 年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他 (具体的に)	
現在の状況および今後の予定・進路等	大学院に進学予定。	
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫	留学前に必要単位をできるだけ取っていた。必要単位を取っておくと単位互換を気にせずに留学先で自分の好きな授業が取れるのでできるだけ取っておくと思う。3 年の後期に教育実習に行く予定であったが、留学したため、大学院 1 年生で行くことを計画している。また自分は参加していないのだが、企業の選考会や合同説明会のようなものがあり、それに参加していた友達もいた。	
6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
イギリス留学リアルな 1 日! // #ちか友留学生活 // 大学 // 交換留学 // 文系 // 理系	https://youtu.be/9_GSM3LCsP4	マンチェスター大学の友達が留學生活についてビデオでまとめている。とてもわかりやすいので是非参考にしてほしい。
留学という名のモラトリアム	http://gakusei-ryuugaku.dreamlog.jp/	
7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)		
大変なこともあったが、それ以上に勉強や旅行、現地の人との交流など多くのことが経験できた。イギリスの大学は広大に比べて授業時間が少ないので、その分自分の好きなことに打ち込むことができる。不安もあると思うが、はっきりした目標を持って実りある留学にしてほしい。		

学習の概要に関するレポート

イギリスでは合計で7つの授業を履修した。分野は主に英文学、英語学のものフランス語の入門の授業をとった。内容は様々だったが、それぞれ週1~2時間のレクチャーと1時間のセミナーで構成されていた。

レクチャーではあらかじめ予習で指定された文章を読み、それを読んだ前提で授業が進む。予習をしていないと授業についていくのが難しかった。しかし何度も読むうちに慣れていきそれほど大変でもなくなった。

セミナーはレクチャーで習った内容について特定のテーマが与えられそれについてディスカッションをするという形であった。私の場合は文学の授業が多く、例えば、Jane Austen の”Pride and Prejudice”の中の表現技法に関することや、The Canterbury Tales の中のキャラクターの特徴や話の内容などについて議論した。基本的にセミナーは学生の意見に沿って進行していくため、意見を言うほどセミナーでの評価は高くなる。

私は日本ではディスカッション中にあまり意見をいう方でなかったもので、レクチャーの中でも意見が言えずに苦労した。しかし他の生徒が自分の考えていることとあまり変わりのないことを発言していると気づくと、少しだが発言できるようになった。また先生が自分の意見を取り上げてくれたこともあり、それも自信につながった。

一番苦労したのが、エッセイであった。イギリスの大学はエッセイの評価が厳しく、構成や引用の仕方について細かく注意された。特に構成に関して introduction, body, conclusion をしっかり分け、全体としてわかりやすいエッセイを書くことが求められた。最初は思うように点が取れず、返却されたエッセイのフィードバックを見たり、オフィスアワーに教授のところへ行き質問したりしていた。また ULC (<http://www.languagecentre.manchester.ac.uk/>)が開講している writing の授業にも参加した。ULC は in-sessional English courses という形で writing だけでなく、speaking や listening などの授業も開講しているのは是非取るべきだと思う。生徒もほとんどがアジア人で、英語が得意でない人が集まっているので、友達も出来やすい。すぐにクラスがいっぱいになるので早めに ULC のホームページから予約すると良い。エッセイについては IELTS の writing の試験も役に立つと思うので、日本で勉強しておくといいと思う。

レクチャーやエッセイなどの勉強も大事だが、はっきりと意思表示をすることも大事だと思う。後期で2年生の授業を取ったのだが、レベルが高くついていけず、授業に出るのをやめようかと思ったことがあった。その時にメールで先生に相談してみたところ、読むべき本などを教えてくださり、なんとかその授業を乗り切ることができた。最初のうちは英語力や知識の問題で何かしら壁があると思うのだが、その時は一人で悩まずに先生に相談することをお勧めする。

自分はマンチェスター大学でたくさんのことを学ぶことができた。これから留学に行かれる方も、ぜひいろいろな分野に興味を持って勉強してほしいと思う。

生活の概要に関するレポート

私のマンチェスターでの生活について主に気候、衣食住、学内外の活動、治安についてまとめていきたいと思う。

- 気候・・・マンチェスターでの気候は基本的には穏やかで、日本より過ごしやすい。だが、とにかく雨が多く、3日に1回ぐらいは雨が降っている感じだった。先ほどまで晴れていたのに急に雨が降り出すこともあり、折り畳み傘よりも防水のコートのほうが重宝した。また雨が多いので湿気があり、食べ物が腐りやすく困った。
- 食事・・・野菜や肉は日本より安く、外食をすると高かったため、基本的に自炊をしていた。寮の近くにスーパーがたくさんあり便利だった。日本食を売っているスーパーもあり、よく利用していた。
- 寮・・・寮は9人でキッチンと2つのトイレ、3つのシャワーを共有していた。部屋は狭かったが、キッチンは広く使いやすかった。ルームメイトとは最初は英語力の不足もあり、うまく話せなかったが、3,4か月して慣れてくると、だんだんと話せるようになった。洗濯は寮の洗濯機を使っていたのだが、洗濯と乾燥で5ポンドほどかかり高かった。また携帯はsimフリーにした携帯を持って行き、giffgaffという会社のSIMを使った。月3000円ほどでネット・電話使い放題で便利だった。
- 学内外の活動・・・自分はJapanese Society と Linguistic Society というサークルに参加していた。前者は日本人や日本に興味のある学生が集まっており、友達も作りやすかった。後者は様々な言語を学ぶサークルで、主に学生が教師となり自分の母国語を教えていた。私はそこでフランス語を習っていた。他にもバスケットボール、ウォーキングなど何でもあるので、自分の好きなものが見つかると思う。<http://manchesterstudentsunion.com/> や <http://internationalsociety.org.uk/>などのサイトでsociety等について調べられる。
- 治安・・・通学路や街中にはホームレスがいて、通るたびにいつもお金を要求された。一人二人ではなく、それぞれの場所に4,5人ほどいた。中にはしつこく付きまとってくる人もいたので、関わらない方がよい。また夜中は一人で出歩かない方がいい。酔っ払いが絡んできたり、スリなどに狙われやすくなる。実際夜10時ごろ道路を歩いていると、後ろから自転車に乗った男に携帯をひたたくられた。普段からよく知っている道だったので油断していた。携帯の回線を止めたり、警察に行ったりするのが大変などで気をつけたほうがいい。酔っ払いに差別的な言葉を浴びせられたり、怒鳴られたりしたこともあった。さらに5月にマンチェスターアリーナーでテロがあった。自分は2週間前に同じ場所であったブルーノーマーズのコンサートに行っていたのでとても怖かった。テロの後には目に見えて警察官の数も増え、交通規制なども行われ厳戒態勢が敷かれていた。イギリスだけでなく、ヨーロッパ各地でこのようなテロが頻発しており、これからも起こらないとは限らないので、用心して欲しい。

本当に様々なことがあり、大変なことも多かったが、それだけたくさんのことを学ぶことができ、実りある留学になったと思う。これから留学に行く人は不安もあるかもしれないが、サポートしてくれる人はたくさんいるので、気負いすぎることなく、精一杯留学生活を楽しんでほしい。

